

ちょうどそのとき、なんにんかのひとがきて、ピラトがガリラヤじんのちをかれらのいけにえにまぜたことをイエスにつげた。イエスはおこたえになった。「そのガリラヤじんたちがそのようなさいなんにあったのは、ほかのどのガリラヤじんよりもつみぶかいものだったからだとおもうのか。けっしてそうではない。いっておくがあなたがたもくいあらためなければ、みなおなじようにほろびる。また、シロアムのとうがたおれてしんだあの18にんは、エルサレムにすんでいたほかのどのひとびとよりも、つみぶかいものだったとおもうのか。けっしてそうではない。いっておくが、あなたがたもくいあらためなければ、みなおなじようにほろびる。」そして、イエスはつぎのたとえをはなされた。

「あるひとがぶどうえんにいちじくのきをうえておき、みをさがしにきたがみつからなかった。そこで、えんていにいった。「もう3ねんものあいだ、このいちじくのきにみをさがしにきているのに、みつけたためしがない。だからきりたおせ。なぜ、とちをふさがせておくのか。」えんていはこたえた。『ごしゅじんさま、ことしもこのままにしておいてください。きのまわりをほって、こやしをやってみます。そうすれば、らいねんはみがるかもしれません。もしそれでもだめなら、きりたおしてください。』」

きょうのふくいんはすこしむずかしいですね。かんたんというと、ガリラヤじんのなんにんものひとがなくなったことにたいして、そのひとたちはばつをうけたからと、あるひとたちはおもっていましたので、イエスさまは「そうではない」とおしえてくださった。そして、みんなはまいにちのいきかたのなかで、わるいことしたときや、しっばいをしたときに、なおしなさいと（かいしん、くいあらため）おしえてくださいました。たとえをもってせつめいをしてくださった。

ぶどうえんにうえられていたいちじくのきがみをみのらせなかったもので、そのみがるのを、3ねんかんまっていたがもうとちがむだですので、おにわのせわをしていたひと（えんてい）にそのきをきるようにといいました。そして、えんていは、もう一ねんだけまってくださいとねがって、いっしょうけんめいにみがるようにおせわをしました。

イエスさまは、このたとえをどうして、わたしたちをよびかけてくださっています。かみさまは、わたしたちをずっとまっとうしてくださっています。

わたしたちは、まいにちのいきかたが、イエスさまがのぞんでおられるいきかたかどうか、しじゅんせつのあいだにとくべつにかんがえてほしい。たとえば、もしぼく、わたしがじぶんのことだけしかかんがえないで、かぞくやがっこうのおともだち、まわりのひとに、いやなおもいをさせたり、こころをきずつけたり、だましたりしたならば、それはあいてのひとだけでなく、みんなのおとうさまであるかみさまをかなしませることになります。

わたしたちはかみさまのころを、ときどきわすれてしまい、じぶんのことだけばかりかんがえてまいにちすごしてしまいます。でもかみさまはわたしたちのことをわすれません。ずっとわたしたちがやりなおすことをまっくさっています。かみさまのころはとてもひろいので、みならっていきましょうね。そしてやりなおすまえに、かみさまときずつけたひとたちに「ごめんなさい」といいたしょうね。

きょうのミサのいのりから

かみよ、わたしたちのころがあなたからはなれてしまうとき、あなたはひとりごイエスをとおしてわたしたちをよびもどしてください。

ぬりえ

